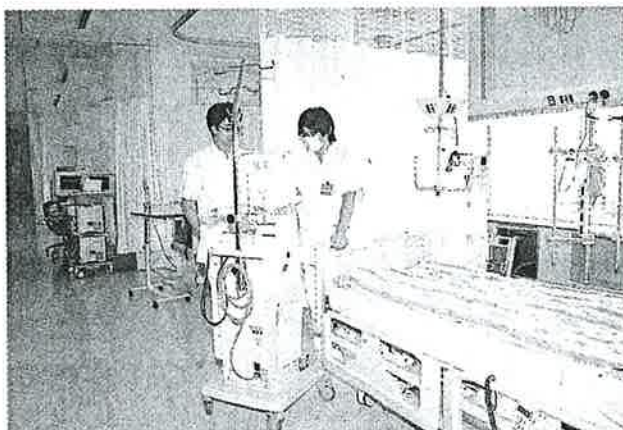


ゆったりとしたスペースを確保した安曇野日赤のICC



安曇野日赤のICC

ゆとりが評価 最優秀賞 全国設計コンテストで

安曇野市の安曇野赤十字病院（沢海明人院長）の集中治療センター（ICC）が、先月に千葉市の幕張メッセで開かれた第39回日本集中治療医学会学術集会の集中治療室設計コンテストで、最優秀賞に選ばれた。1床当たりの面積をたつぷり確保し、ベッドを横にも縦にも置ける余裕のある造りと、職員手作りの資料によるわかりやすいプレゼンテーションで、大学病院を含めた全国12施設の中で1位に輝いた。

安曇野日赤のICCは約240平方メートルで、二つの個室を含め8床のベッドを備える病室部分は約130平方メートル。患者1人当たりの割当面積は約20平方メートルで、個室病室の16平方メートルと比べてもゆとりとしている。多くの医療機器を備えるICCで医師や看護師が動きやすいように設計されており、通路はベッド2台が楽にすれ違える幅になっている。東側には大きな窓を取り付け、採光にも配慮されている。春に光城山の桜を眺めることもできる。

コンテストは「ICCは空間そのものが治療の一部」との考えの下、本年度初めて実施された。安曇野日赤では、集中治療部長の藤田正人医師（44）ら5人のチームで臨んだ。看護師の吉沢忠史さん（30）、荒井理愛さん（25）、斎藤篤さん（33）の3人が中心になり、仕事の合間を縫って3カ月かけて資料を作成した。

（浅川寛子）